



## 山本 芳弘 准教授

### 【やまもと よしひろ】

環境、エネルギー、資源およびその関連領域に関心があります。また、より効果的な教育・研究方法を求めて試行錯誤しています。当地はたいへん自然豊かなところなので、休日はいっけたくありません。

- 市場と経済B
- 環境経済学I・II

# 環境経済学から 経済活動のあり方を再検討する

環境・エネルギー・資源などにかかわる経済問題について研究しています。具体的な研究対象は、環境汚染、地球環境問題、エネルギー問題、資源利用のあり方など、枚挙にいとまがありません。これらは、私たちの世代のみならず将来の世代にとっても、また我が国のみならずあらゆる国・地域の人々にとっても、極めて重要な問題です。にもかかわらず、一向に解決しないのはなぜでしょうか。少し考えてみると、これらの問題には経済活動が大きく関係していることに気付くでしょう。ということは、なんとかして解決しようとするならば、経済活動のあり方から再検討してみる必要があるということになります。それこそ今日の私たちの経済社会を根本から変えなければならないかもしれません。このような難しいけれども解決しなければならない課題にチャレンジすることは、たいへんやりがいのあることだと思いませんか。

環境・エネルギー・資源などにかかわる問題は、新聞や雑誌、テレビなどで頻繁にとりあげられています。その上、身近な問題であることも多く、誰でもこれらの問題について何かしら述べるができるのではないかと思います。しかしながら、必ずしも真の理解や問題解決につながっていないのは、それらがしっかりとした学術的知見に基づいたものではないからだと思います。経済学の基礎の上に成り立つ環境経済学は、問題の本質を捉え、より効果的な処方箋を見出すための有効な手段のひとつなのです。

学部授業では、経済学への入門である「市場と経済」と、専門分野の「環境経済学」を担当しています。「環境経済学」は専門応用科目ですが、それを勉強することによって、経済学の理解がより深まることもあります。また、ゼミでは、環境経済についてゼミ生が調べたことや考えたことを発表し、議論するというスタイルをとっています。ゼミ生の自主性を尊重し、自由に研究できるように心掛けています。

私たちのゼミで扱う環境経済学は、環境問題に関する応用経済学の一分野であり、研究対象や切り口は多岐にわたります。その中から、私たちゼミ生は、テーマやアプローチ方法などを自由に考え、研究することができます。さらに、ゼミ生同士で意見を出し合ったり先生から助言を受けたりなど、学ぶのに最適な「環境」のゼミです。

2008年入学 高橋 裕也

ゼミ生のひとこと

